

Title	ErDOS ノ問題ニ就イテ
Author(s)	近藤, 基吉
Citation	全国紙上数学談話会. 225 p.542-p.553
Issue Date	1941-10-27
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74906">https://doi.org/10.18910/74906</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 976. Erdős の問題 = 就イテ

近 藤 基 吉(北大)

本誌 / 第二〇五号 = 掲載サレタ角谷氏ノ書簡ノ中 = 二三ノ問題頂カ出テ居テ、ソノ一ツガ Erdős ノ提出シタ

「 $0 \leq x, y \leq 1$ ナル square 内ノ measure 1ノ集合デ如何ナル  $X + Y$  (但シ、 $X, Y$ ノ濃度ハ何レモ continuum)ナル形ノ集合ヲ含マナイモノガ存在スルカ」

デアル。コノデ  $X+Y$  の意味がヨク判ラナイが先ヲ *vector sum* 即チ  $X$  ノ点  $(a, b)$  ト  $Y$  ノ点  $(c, d)$  トカラ作  
 ラレル  $(a+c, b+d)$  ノ全体カラナル集合ニ考ヘルト、  
 G. Cantor ノ *hypothese du continu* ノ下ニ  
 コレガ否定的ニ解決サレル。先ハムツカシイコトデハナク、  
 次ノヌウニスレバト合デアル。初メニ正方形  $R: 0 \leq x, y \leq 1$  ニ変換。

$$\theta: x' = x - \frac{1}{2}, \quad y' = y - \frac{1}{2}$$

ヲ施シテ考ヘル。  $E \ni R$  ニ含マレル測度ノ可測集合ト  
 スルトキニ、  $\theta$  ニ依ツテ  $E \ni \theta(E)$  ニ移ル。ソコデ  $\theta(E)$   
 ノ中ニ濃度式ノ集合  $Z$  テ作ツテ  $Z + Z \subseteq \theta(E)$  ノ成立  
 ツヌウニスル。其ノ仕方ハ先ヅ  $Z_1 \ni \theta(E) \cdot \frac{1}{2} \theta(E)$  ノ中  
 ニ選テ ( $\theta(E)$  ノ可測性カラコレハ可能) スルト  $Z_1, 2Z_1$   
 $\in \theta(E)$  デアル。今  $Z_\beta$  ( $\beta < \eta < \aleph_1$ ) ガ  $\theta(E)$  ノ中ニ選  
 バレテ

$$Z_\beta + Z_\gamma \in \theta(E) \quad (\beta, \gamma < \eta)$$

ガ成立ツトスル。次ニ

$$\theta(E) \cdot \frac{1}{2} \theta(E) \cdot \prod_{\beta < \eta} (-Z_\beta + \theta(E))$$

ヲ作ル。  $\theta(E)$  ノ可測性カラコレハ空デナイ。此ノ中ノ  
 一点ヲ  $Z_\eta$  トスル。スルト

$$Z_\eta \in \frac{1}{2} \theta(E) \quad Z_\eta \in -Z_\beta + \theta(E)$$

カラ  $Z_\eta + Z_\beta \in \theta(E)$  ( $\beta \leq \eta$ ) デアル。此ノ様ニシテ選

バレル  $\Sigma_p (\beta < \aleph_1)$  の全体ヲ各トスレバ  $x + x \leq \theta(E)$   
ハ明カデアアル。トコロデ

$$\theta(E) = \left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right) + E$$

デアアルカラ、 $-\left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right) + x + x \leq E$  が成立ツ。故  
ニ  $X = -\left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right) + x$ ,  $Y = x$  トスレバ  $X + Y \leq E$ .  
シカモ  $X, Y$  ノ濃度ハ  $\aleph_1 = \aleph_1$  デアル。今  $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  ノ假  
定スレバ  $X, Y$  ノ濃度が *continuum* トナリ Erdős ノ  
問題が否定的ニ解決サレル。

此処デ  $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  ノ假定が取レレバヨイガ、此方法デ  
ハ困難デアアル。但シコノ假定ヲ「測度  $\mu$  ノ集合  $A$  ノ  $\mu(A)$  (但  
シ  $\mu(A) < 2^{\aleph_0}$ ) 但  $\mu$  ハ又測度デアアル」デ置換ヘルコト  
が出来る。

次ニ、今考ヘタ問題デハ正方形  $0 \leq x, y \leq 1$  ノ殆ン  
ド凡テノ点ヲ含ム集合  $E$  ヲ考ヘタデアアルガ、ソノ代リニ  
平面上ノ殆ンド凡テノ点ヲ含ム集合ヲ考ヘルト次ノマウナ  
事が云ハレル。

「 $E$  ヲ平面上ノ殆ンド凡テノ点カラナリ、シカモ原  
点  $O$  ヲ含ム集合トスルトキニ、 $E$  ニ含マレ、濃度が  $2^{\aleph_0}$   
デ、非可測デ、シカモ有理数体ニ関シテ *modul* ヲナス  
モノカ存在スル (但シ  $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  ノ假定スル)」

証明 有理数ノ全体ヲ無限系列ニ列ベテ

$$r_1, r_2, \dots, r_n, \dots$$

トスル。次ニ平面上ニアル測度  $> 0$  ノ有界完全集合ノ全

体ハ濃度ガ  $2^{\aleph_0}$  デアルカラ、 $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  = 依ッテ、此等  
ヲ  $\Omega$ -sequence

$$P_1, P_2, \dots, P_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega)$$

= 列ベルコトガ出来ル、其処ヲ点列  $z_\alpha$  ( $\alpha < \Omega$ ) ヲ次ノ  
様ニ定義スル。  $\prod_{n=1}^{\infty} \iota_n E \wedge E$  ノ性質カラ平面上ノ殆ンド

凡テノ点ヲ含ム。夫故  $= P, \prod_{n=1}^{\infty} \iota_n E \wedge$  又空デナイ。此中ノ  
一ノ点ヲ  $z_1$  トスル。スルト

$$(1) \quad z_1 \in P,$$

$$(2) \quad \iota \text{ヲ任意ノ有理数トスルトキ} = \iota z_1 \in E \text{ガ成立}$$

ツ。

今  $z_\beta$  ( $\beta < \eta < \Omega$ ) ガ定義セラレテ

$$(3) \quad z_\beta \in P_\beta$$

$$(4) \quad \iota_1 z_{\beta_1} + \iota_2 z_{\beta_2} + \dots + \iota_n z_{\beta_n} \quad (\iota_k, \text{有理数} \\ \beta_k < \eta) \wedge E = \text{含マレル。}$$

ガ成立ツトスル。其処ヲ

$$\prod_{\beta_k < \eta} (\iota_1 z_{\beta_1} + \iota_2 z_{\beta_2} + \dots + \iota_n z_{\beta_n} + E)$$

ヲ作ル。  $\iota_1 z_{\beta_1} + \dots + \iota_n z_{\beta_n}$  ノ集合ハ可附番デアアルカラ、

此ノ集合ハ平面上ノ殆ンド凡テノ点ヲ含ム。今コレニ含マ

レ、シカモ  $P_\eta =$  含マレル一ノ点ヲ  $z_\eta$  トスル。然ルトキニ

ハ  $\iota_1 z_{\beta_1} + \dots + \iota_n z_{\beta_n} + \iota z_\eta$  ( $\beta_k < \eta$ )  $\wedge E =$  含マレ

ル。夫故ニ此ノ様ニシテ得ラレタ  $z_\eta$  ( $\eta < \Omega$ ) ノ全体カラ

作ラレル modul  $m$  ヲ考ヘレバ、 $m \leq E$  ガ成立チ、シ

カモ  $m$  の濃度  $2^{\aleph_0}$  デアル。

次 =  $m$  が非可測デアルコトヲ示ス。  $m$  の外測度が 0 デナイコトハ平面上ノ凡テノ測度  $> 0$  ノ有界完全集合ト  $m$  トが素デナイコトヨリ明カデアル。次 =  $m$  が可測デアルトスレバ、原点ヲ通ル直線  $L$  ヲ適當ニ選ンデ  $m \cap L$  が  $\text{linear measure} > 0$  ノ完全集合ヲ含ムヤウニ出来ル。然ルトキニハ H. Steinhaus ノ定理カラ  $L$  ノ凡テノ点ハ  $m$  ニ含マレルコトニナル。従ツテ初メカラ  $E$  ヲ修正シテ  $E$  が原点ヲ通ル直線ヲ含ムナイ様ニシテ置ケバ (例ヘバ、 $O$  ヲ中心トシ半径 1 ノ円周上ノ点ヲ除ク)  $E$  ニ含マレル  $m$  モ亦原点ヲ通ル直線ヲ含ムナイコトニナリ、従ツテ  $m$  ハ非可測デアル。(証明完了)

トコロデ、 $\text{Modul}$  = 対シテ此ノ様ナコトガ云ハレルト  $\text{Körper}$  = 對シテハドウカト云フ問題が起ツテ来ルコレニ對シテハ

「 $E$  ヲ  $\text{gauss}$  平面上ノ殆ンド凡テノ点ヲ含ミ且ツ凡テノ  $\text{real}$  ノ有理數ヲ含ム集合トスル時ニ、 $E$  ニ含マレル濃度  $2^{\aleph_0}$  ノ体デ  $\text{gauss}$  平面上ノ任意ノ測度 0 ノ集合ト高々可附番個ノ要素ヲ共有スルモノが存在スル ( $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  ヲ假定スル)」

証明.  $\text{gauss}$  平面上ニアル測度 0 ノ  $G_\delta$  集合ノ全体ハ濃度が  $2^{\aleph_0}$  デアルカラ、 $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  ニ依ツテ此等ノ集合ヲ  $\aleph_1$ -sequence.

$Q_1, Q_2, \dots, Q_\alpha, \dots$  ( $\alpha < \aleph_1$ )

= 列べるコトが出来ル。又 Gauss 平面上、凡テ、点ハ  
 $2^{\aleph_0} = \aleph_1$  = 依ッテ  $\aleph_1$ -sequence.

$$x_1, x_2, \dots, x_\alpha, \dots \quad (\alpha < \aleph_1)$$

= 列べる事が出来ル。某処デ  $\{x_\alpha\}$  ( $\alpha < \aleph_1$ ) テ帰納法 = 依  
 ヲッテ次ノ様ニ定メル。

有理数ヲ係数トスル有理函数ノ全体ハ  $\aleph_1$ 。デアアル。今  
 夫等ヲ

$$R_1(x), R_2(x), \dots, R_n(x), \dots$$

トスル。其処デ  $\bigcup_{n \in \mathbb{N}} \{R_n(x) \in E - Q_1\}$  ヲ考ヘル。  $E - Q_1$   
 ハ Gauss 平面上、殆ンド凡テノ点ヲ含ムカラ。此  
 ノ集合ニ Gauss 平面上、殆ンド凡テノ点ヲ含ム。  
 夫故ニ

$$\prod_{n=1}^{\infty} \bigcup_{x \in E} \{R_n(x) \in E - Q_1\}$$

ハ空デナイ。此集合ノ一点ヲ  $z_1$  トスル。然ルトキニ、ハ定  
 義カラ

$$(1) \quad z_1 \in E - Q_1,$$

$$(2) \quad R_n(z_1) \in E$$

デアアル。

次ニ  $z_\alpha$  ( $\alpha < \aleph_1$ ) が既ニ定義セラレタトスル。

$z_\alpha$  ( $\alpha < \aleph_1$ ) 全体ノ集合ヲ  $S_\eta$  ト置キ

$$S_\eta = \sum_{\alpha < \eta} Q_\alpha$$

トスル。  $z_\eta + S_\eta$  ハ又測度 0 ノ集合デアアル。トコロデ

$\mathcal{R}(\mathcal{Z}_\alpha(\alpha < \eta))$  (有理数体 =  $\mathcal{Q}_\alpha(\alpha < \eta)$  を *adjoin* シテ得ラレル体) を係数域トスル $\mathcal{R}$ ノ有理函数ノ全体ハ可附番個ナル。夫等ヲ

$$R_1^*(x), R_2^*(x), \dots, R_n^*(x), \dots$$

トスル。  $\mathcal{Z}_\eta + S_\eta$  ハ測度 0 デアルカラ  $E - (\mathcal{Z}_\eta + S_\eta)$  ハ又 *gauss* 平面上ノ殆んど凡テノ点ヲ含ム、夫レ故ニ  $E_{\mathcal{R}} \{ R_n^*(x) \in E - (\mathcal{Z}_\eta + S_\eta) \}$  ハ又 *gauss* 平面上ノ殆んど凡テノ点ヲ含ム。従ツテ

$$\prod_{n=1}^{\infty} E_{\mathcal{R}} \{ R_n^*(x) \in E - (\mathcal{Z}_\eta + S_\eta) \}$$

ハ空テ + 1。コノ中ノ一系ヲ  $\mathcal{Z}_\eta$  トスル。然ルトキニハ

$$(3) \quad R_n^*(\mathcal{Z}_\eta) \in E$$

$$(4) \quad R_n^*(\mathcal{Z}_\eta) \in \mathcal{Q}_\alpha \quad (\alpha < \eta)$$

ガ成立ツ。此様ニシテ得ラトタ  $\mathcal{Z}_\eta$  ( $\eta < \mathcal{S}_\mathcal{R}$ ) ノ全体カラ作ラレル体  $\mathcal{R}$  ガ求メルニデアル。夫レハ又ノ様ニシテ判ル。  $\mathcal{R}$  ノ濃度が  $2^{\mathcal{S}_\mathcal{R}}$  デアルコトハ  $2^{\mathcal{S}_\mathcal{R}} = \mathcal{S}_\mathcal{R}$  ヨリ明カデアル。又、  $\mathcal{R} \subseteq E$  ノ成立ツコトハ自明デアル。次ニ *gauss* 平面上ニアル測度 0 ノ集合  $F$  ヲ考ヘル。然ルトキニハ  $F \subseteq \mathcal{Q}_\alpha$  ノ成立スル  $\mathcal{Q}_\alpha$  ガ存在スル。従ツテ (4) ヨリ  $F$  ニ含マレル  $\mathcal{R}$  ノ要素ハ  $\mathcal{R}(\mathcal{Z}_\beta (\beta < \alpha))$  ニ属スル。此ノ事カラ  $F$  ニ含マレル  $\mathcal{R}$  ノ要素ノ集合ハ商々可附番デアル。即チ  $\mathcal{R}$  ガ求メル体デアル。 (証明完了)

此処デ「測度 0 ノ集合トハ商々可附番個ノ点ヲ共有スル」ト云フ条件ノ説明ヲシナシレバ判ラナイヲモ知レナ



イが、コレハ *W. Sierpinski* = 依ッテ性質 (S)  
ト呼バレルモノデ、コレカラ仲々面白いコトが云ハレ  
ル。

「 $\mathcal{R}$ ノルテノ非可附番部分体ハ非可測デアル、従ッテ  
 $\mathcal{R}$ 自体ニ非可測デアル」

証明.  $\mathcal{R}$ ヲ $\mathcal{R}$ ノ非可附番部分体トスルトキニハ性  
質 (S) = 依ッテ測度  $> 0$  デアル、ソレ故ニ $\mathcal{R}$ ガ可測デ  
アレバ、 $\mathcal{R}$ ノ測度ハ正トナリ、従ッテ $\mathcal{R}$ ノ中ニ測度 0  
ノ完全集合が含まレナケレバナラナイ、コレハ性質 (S)ニ  
矛盾スル、故ニ $\mathcal{R}$ ハ非可測デアル。 (証明完了)

夫レデハ $\mathcal{R}$ ノ中ニ非可附番部分体が存在スルデアラ  
ウカ、コレニ対シテ

「 $\mathcal{R}$ ノ中ニ $2^{\aleph_0}$ 個ノ互ニ相異ル非可附番部分体ヲ作ッ  
テ、相異ルニツカ *real*ノ有理数ノミヲ共有スルモノニ出  
来ル。」

証明<sup>(1)</sup>.  $\mathcal{R}$ ノ濃度ハ $2^{\aleph_0}$ デアルカラ、其ノ要素ヲ  
 $\Omega$ -sequence ( $\Omega \in \mathcal{R}$ ハ濃度 $2^{\aleph_0}$ ノ最小ノ順序  
数)

$$x_1, x_2, \dots, x_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega)$$

ニ列ズルコトが出来ル。其処ガ $\Sigma_{\alpha\beta} (\alpha \leq \beta < \Omega)$ ヲ次  
ノヤヨニ定ムル。先ツ $\Sigma_{11} = x_1$ ト置ク。今 $\Sigma_{\alpha\beta} (\alpha < \xi)$   
及ビ $\Sigma_{\xi\beta} (\beta < \eta)$ ガ定義セラレタトスル。然ルトキニ  
ハ $\mathcal{R}(\Sigma_{\alpha\beta} (\alpha < \xi), \Sigma_{\xi\beta} (\beta < \eta))$ ノ濃度ハ $2^{\aleph_0}$ ヨリ

(1) 守屋美賀雄氏ニ負フ所が多い。

小デアル。従ッテ此体=コレ=関スル凡テノ代数的數ヲ附加シテ得ラレル体モ濃度  $< 2$  也。故ニ  $\Sigma_\alpha$  ノ中=此ノ新シイ体=含マレヌモノが存在スル。其ノ中デ指數ノ最小ノモノヲ  $\Sigma_{\beta_0}$  トスル。コノ様ニシテ得ラレタ  $\Sigma_{\beta_0}$  = 附シテ体  $R(\Sigma_{\beta_0} (\beta: \text{fix}))$  ノ全体ヲ考ヘル。コレが求ムル部分体デアルコトハ明カデアル。(証明完了)

次ニ  $R$  ノ類=関スル性質トシテハ

「 $R$  ハ *toujours de première catégorie* デアル。即チ任意ノ完全集合=関シテ  $R$  ハ第一類デアル」

証明。今  $P$  ヲ Gauss 平面上ニアル完全集合トスル。 $P \cap R$  ノ測度が 0 ノ時ニハコレハ高々可附着デアルカラ、 $P \cap R$  ハ勿論  $P$  = 於テ第一類デアル。次ニ  $P \cap R$  ノ外測度  $> 0$  ノ時ヲ考ヘル。コノ時ニハ  $P \cap R$  ノ *mesure égale à 0*  $H$  ヲ定メテ  $H \subseteq P$  ト出来ル。然ルニ  $H$  ノ中ニ測度  $> 0$  ノ *non dense* ノ完全集合が存在スル故ニ第一類集合  $J$  ヲ定メテ  $H - J$  が測度 0 デアル様ニトシ得ル。従ッテ

$$P \cap R = P \cap R \cap J + P \cap R (H - J)$$

が成立シ、 $P \cap R (H - J)$  ハ高々可附着デアルカラ  $P \cap R$  ハ又  $P$  = 於テ第一類デアル。即チ、 $R$  ハ *toujours de première catégorie* デアル。(証明完了)

此ノ事カラ  $E$  ノ中ニ非可測デ第一類ノ体ノ含マレルコトが判ツタガ、同様ニシテ  $E$  が Gauss 平面ノ到ル所デ第二類デシカモ *Baire* ノ性質ヲ有スルトキニ。  $E$  ノ中ニ *Baire* ノ性質ヲ有シナイテ測度 0 ノ体が存在スルコト

が示サレル。又

「 $E$  が *gauss* 平面上ノ殆ンド凡テノ点ヲ含ミ到ル所第ニ類デシカモ *Baire* ノ性質ヲ有スナレバ、 $E$  ノ中ニ非可測デ *Baire* ノ性質ヲ有シナイ体が存在スル (230 = 3, ヲ假定スル)」

が云ハレル。

此様ナ事ヲ續ケテ行クト更ニ結果が出セルガ、此処デハコレカケニ止メテ置キタイト思フ。

追記: 性質 (S) ヲ有スル体ノ存在ニ関シテハ

「 $E$  ヲ非可測ノ体トスル時ニ、 $E$  = 含マレ $E$  ト同ジ *mass-gleichlute* ヲ有シ、シカモ性質 (S) ヲ有スル体が存在スル。」

が成立スルノデ、コレヲ使ッテ  $E$  ノ中ニ性質 (S) ヲ有スル体ノ存在ヲ示スノが常道デアルト思フ。此命題ハ次ノ様ニシテ証明セラレル。

$E$  ノ要素ヲ  $\Omega$ -sequence

$$x_1, x_2, \dots, x_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega)$$

= 列ベ、 $E$  ノ *mass-gleichlute* = 含マレル測度 0 ノ  $G$  の集合。測度  $> 0$  ノ完全集合ヲ夫々  $\Omega$ -sequence

$$Q_1, Q_2, \dots, Q_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega)$$

$$P_1, P_2, \dots, P_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega)$$

= 列ベル。其処デ  $\Sigma_\alpha$  ( $\alpha < \Omega$ ) ヲ次ノ様ニ定メル。

有理数ヲ係数トスル  $x$  ノ有理函数ヲ列ベテ

$$R_1(x), R_2(x), \dots, R_\alpha(x), \dots$$

トスル。其処デ  $\sum_{n=1}^{\infty} E_{n\alpha} (R_n(x) \in Q_1)$  ヲ考ヘル。コレ

ハ測度ノデアアル。従ツテ、コレニ含マレタイ  $P, R$  ノ無  
 $x_\gamma$  ガアル。ソノ中デ  $\gamma$  ノ最小ノモノヲ  $z$  トスル。明  
 カニ

$$(1) R_n(z) \in Q_1$$

デアアル。今  $z_\alpha (\alpha < \eta < \Omega)$  ガ定義セラレテ

$$(2) z_\alpha \in P_\alpha$$

$$(3) R(z_\beta (\beta < \alpha < \eta)) \text{ヲ係数域トスルルノ有理} \\ \text{函数 } R(x) \text{ニ對シテ } R(x_\alpha) \in Q_\beta (\beta \leq \alpha)$$

ガ成立スルトスル。其処デ  $R(z_\alpha (\alpha < \eta))$  ヲ係数域トス  
 ルルノ有理函数ヲ列ベテ

$$R_1^*(x), R_2^*(x), \dots, R_n^*(x), \dots$$

トスル。然ルトキニハ

$$S = \sum_{n=1}^{\infty} E_{n\alpha} (R_n^*(x) \in \sum_{\alpha \leq \eta} Q_\alpha)$$

ニ測度ノデアアル。今  $P_\eta R =$  含マレテ  $S =$  含マレタイ要  
 素  $x_\gamma$  ガ存在スル。ソノ中デ  $\gamma$  ノ最小ノモノヲ  $z_\eta$  トス  
 ル。然ル時ニハ

$$(4) z_\eta \in P_\eta$$

$$(5) R_n^*(z_\eta) \in Q_\alpha (\alpha \leq \eta)$$

デアアル。此様ニシテ與ヘラレル  $z_\alpha (\alpha < \Omega)$  ガ作ラレル  
 体ガ求メルモノデアアルコトハ前ノ時ト同様デアアル。

(証明完了)

此処デ尚一ツ注意シテ置キタイコトハ

「Gauss 平面ト同ジ Massgleichheit ヲ有シ、  
real, 有理数ヲ含ム集合ニテ  $\mathbb{R}$  (有理数ヨリ成ル体)  
以外ニ体ヲ含マナイモノカ存在スル。」

デアール。コレヲ証明スルタメニ測度  $> 0$ ノ完全集合ヲ  $\Omega_c$ -  
sequence = 列ベテ

$$P_1, P_2, \dots, P_\alpha, \dots \quad (\alpha < \Omega_c)$$

トスル。  $P_i$  ノ一点ヲ取トスル。  $\alpha$  ( $\alpha < \eta < \Omega_c$ ) カ定  
義セラレテ (1)  $\alpha \in P_\alpha$ , (2) 0,  $\alpha$  ノ定タル直線ガ互ニ  
相異ルトスル。今直線 0  $\alpha$  ( $\alpha < \eta$ ) 上ニ +イ  $P_\eta$  ノ一  
点ヲ取トシ  $\mathbb{R} + \sum_{\alpha < \Omega_c} (\alpha)$  ヲ考ヘル。コレガ求メル集合  
デアールコトハ容易ニ判ル。